

こたえ メダカのたんじょう

きそ基礎③

メダカのたんじょう

メダカのめすは、水草などに、たまごをうみつけます。めすがうんだたまご、おすが出す精子が結びつくことを、受精といいます。受精したたまごだけが、育って子メダカになります。

受精したたまごを、解剖顕微鏡を使って、毎日同じ時刻に観察すると、中の様子が、毎日少しずつ変わっていくのが分かります。はじめは、あわのようなものが見えるだけです。やがて、目ができ、心臓が動き始め、血液が流れる様子も見えるようになります。

水温が二十五度くらいのとき、たまごは、およそ十日から十一日で、子メダカになって出てきます。

生まれたばかりの子メダカのはらには、ふくらみがあります。この中には、育つための養分が入っています。そのため、子メダカは、生まれてから二、三日は、えさを食べなくても生きていくことができますのです。

メダカは、夏の間、何度もたまごをうみます。たまごから生まれた子メダカも、やがて大人になり、またたまごをうむのです。

受精

1 たまごと精子が結びつくことを、何といいますか。

2 たまごの中の様子として、本文に書かれていないものはどれですか。

ア 目ができる。

イ 心臓が動く。

ウ ひれでおよぐ。

3 水温が二十五度くらいのとき、たまごはおおよそ何日で子メダカになりますか。

およそ十日から



日

4 子メダカが、生まれてしばらくえさを食べなくても生きられるのは、どうしてですか。

ア はらのふくらみに、養分が入っているから。

イ 水の中の養分をすうから。

ウ 親メダカが運んでくれるから。

おうちの方へ

- メダカを飼う機会があれば、たまごの変化を毎日観察してみましょう。